



新庁舎について出たアイデアを発表する高校生

(26日、田辺市新屋敷町で)

次世代の声 新庁舎に

田辺 高校生がワークショップ

田辺市は26日、新庁舎整備に次世代の意見を反映させるワークショップを同市新屋敷町の市本庁舎で開いた。市内5高校の生徒計10人が参加。現庁舎の課題や新庁舎に求める機能について提言した。

市の構想によると、新庁舎は本庁舎(新屋敷町)と市民総合センター(高雄1丁目)の機能を統合。東山1丁目の「オークワ オアシティ田辺・紀伊田辺シティプラザホテル」を解体し、建設する。

ワークショップは、9月にも策定する基本計画に市民の意見を反映させるのが目的。田辺、神島、田辺工業、南紀、南部龍神分校の5校から男女1人ずつが参加した。

参加者は本庁舎内を見学

後、2班に分かれ「現庁舎の良いところ、悪いところ」「新庁舎への期待」「求められる機能やアイデア」をテーマに意見を出し合った。

現庁舎については「暗い」「それぞれの部署がどこにあるか分かりにくい」「車いすへの配慮が足りない」など駄目出しが多く、「良いところははない」という声もあった。

それを受けて、新庁舎に求めたのは「気軽に訪れられる環境」「交流機能」「明るい照明や吹き抜け空間」「キッズスペース」「特産物を生かしたカフェ」など具体的な提案があった。また、「市長室をもっと市民の目に付く場所に」「観光資源となるような市庁舎に」といったアイデアも出た。

神島の新3年生、前田裕輝君(17)は「地元だけれど、庁舎に来るのは初めて。暗いし、(玄関の)2階はごちゃごちゃした印象だった。勉強できるスペースなどがあれば、僕らも気軽にいく」と話した。

田辺新3年生の里田汐音さ

ん(17)は「インスタ映えすれば、若者も訪れる。海を見下ろす高台の立地を生かしてほしい。自分たちの意見が新庁舎に反映されたら、『この部分がそつだよ』と自慢したい」と笑った。

新庁舎整備室は「交流の場所として新庁舎をまちづくりに生かしたい。意見を踏まえ、基本計画を作り、よりよい庁舎にしたい」と話した。